

65. 隠岐国

島根県隠岐郡隠岐の島町西郷 2005.04.21

隠岐国は小さい島国である。西ノ島、中ノ島、知夫里島の3島からなる島前と、最大の島である島後の4島を合わせても、琵琶湖の半分しかない。しかし、古代から防衛上の重要拠点とされ、島でありながら、淡路、佐渡とともに「国」として扱われてきた。また、この島は流刑の島として、後鳥羽上皇、後醍醐天皇を始め、遣唐副使小野篁、前加賀守源頼房等都の貴人、顕官が多数配流された島でもある。

特に後鳥羽上皇は16年の長きにわたりこの地で暮らしたが、当代一流の文化人であり、特に和歌に関しては、藤原定家をも凌ぐすぐれた歌人であった。同時に批評家としても超一流で、新古今和歌集は、この上皇の生涯にわたる編集の精華であるとも云える。

隠岐国府跡

隠岐国府は周吉郡(すきのこほり)に置かれたと古文書は伝える。現在の西郷町甲野原に比定されている。実際、惣社である玉若酢命神社の南にある小高い山を城山と呼び、かつて甲ノ尾城という城があったと伝えられている。国府は「こう」と発音されるから、甲は国府に通ずるのであろう。しかしまだ、国府関連の遺構は発掘されていない。



玉若酢命神社の鳥居越しに見る城山



億岐家
古代の隠岐国造の子孫で、現在は玉若酢命神社の宮司を務める。この建物は億岐家の住居だが、国の重要文化財である。



駒鈴(うまやのすず)
億岐家に伝わる古代の駒鈴。大化2年(646) 駅伝の制度が制定され朝廷から諸国の国府に配布された。諸国の官人が公務で往来するとき、主要道に設けられた駅で、人や馬を徴用するとき用いた身分証明であった。現在、億岐家に伝わる2個の駒鈴だけが残って、古代交通の貴重な史料として国の重要文化財に指定されている。

玉若酢命神社(隠岐国惣社)

隠岐国の惣社は**玉若酢命神社**である。代々の宮司は、古代の**隠岐国造**億岐家の末裔が勤めてきた。祭神は玉若酢命。海から上陸してきた航海の神である。



神門

境内は広く、鬱蒼とした森に包まれている。



拝殿

出雲様式の太い注連縄が印象的。



本殿

大社造と神明造を合わせたような隠岐造。寛政五年(1793)建立。

この宮には不思議な言い伝えが残っている。昔、若狭国に美しい娘がいた。18才になった時、娘は**人魚**の肉を食べたという。そのために娘は老いることがなくなってしまった。800年たっても美しい娘のままでいた。**八百比丘尼**と呼ばれた彼女は、ある時、隠岐国へ来て、この宮に一本の杉の木を植えた。「あと800年経ったら、またこの杉を見に来ます。」と言って、いずともなく立ち去ったという。その杉は**八百杉**と名付けられて、今でも境内にその勇姿を見せている。



八百杉
境内にあり樹齢2千年を数える巨木。

隠岐国分寺

隠岐国分寺は数奇な運命をたどった。

奈良時代に創建されてから、連綿と法灯を伝え、元弘二年(1332)には、鎌倉幕府討伐の兵を挙げ敗れて隠岐へ流された**後醍醐天皇の行在所**になった。しかし、国分寺周辺の諸氏が天皇に同情的であったので、脱出をおそれた幕府は島前に**黒木の御所**を建ててご遷座を図ったが、天皇はその直前に脱出し伯耆国**船上山**に拠って倒幕の兵を挙げる。**建武中興**前夜のことである。

明治二年(1869)には**神仏分離令**をきっかけに激しい**廃仏毀釈**が起こり、前年の**隠岐騒動**の余波もあって七堂伽藍はことごとく破却された。後醍醐天皇の行在所であったため、さすがに火はかけられなかったが、堂塔は解体され、仏像は傷つけられて裏庭にうち捨てられた。

しかし、心ある信者は騒ぎの収まるのを待って、復興に立ち上がった。10年後の明治十二年(1879)には小堂が建てられ、昭和になって現在の本堂が完成した。たいへん残念なことに、平成19年2月25日、本堂から出火し全焼した。



隠岐国分寺参道



山門



後醍醐天皇行在所跡の碑
国の史跡に指定されている。



国分寺金堂跡
江戸期に建てられた金堂の礎石。
後醍醐天皇の行在所跡でもある。



廃仏毀釈にあった仏像達



無惨な姿の四天王像



寺院迫害願末状



現国分寺本堂



蓮華会舞を楽しむ地元の人達



隠岐国分寺炎上
 平成19年2月25日午後3時30分、隠岐国分寺本堂から火が出て410㎡を全焼した。国の重要無形文化財蓮華会舞で使われる面9枚も焼失した。(写真は読売新聞26日版)

蓮華会舞(れんげえまい)

隠岐国分寺に伝わる**蓮華会舞**は、千年以上の歴史を持つ。明治の廃仏毀釈でいったんは途絶えたが、面や衣装は地元の人々が密かに隠して難を逃れた。その後、大変な熱意で復元し、現在では国の重要無形民俗文化財として、伝統を伝えている。

隠岐国分寺住職**重栖(おもす)真快師**によれば、蓮華会舞はインドやシルクロードの流れをくむ伎楽で、無言の仮面劇である。



蓮華会舞を主催する住職重栖真快師
 蓮華会舞保存会事務局長でもある。



眠り仏之舞
 獅子に起こされた眠り仏が相撲をとる。



獅子之舞
速いテンポのダイナミックな獅子の舞。



太平楽之舞
古代中国の戦士の舞を面を着けずに舞う。



麦焼き之舞
農作業の様子をコミカルに舞う。



龍王之舞
舞楽の「蘭陵王」をもとにした勇壮な舞。



山神・貴徳之舞
山神と貴徳の二人が鏡のように舞合わせる。菩薩面をつけてゆったりと舞う。



仏之舞
菩薩面をつけてゆったりと舞う。

水若酢神社(隠岐国一之宮)

隠岐一之宮は、島後の北側五箇村に鎮座する**水若酢神社**である。延喜式で明神大社に列し、祭神は水若酢命。海から上がってこられた航海安全の神という。

宮司は、阿波から石見を経て隠岐に勢力を伸ばした**忌部氏**で、幕末の**隠岐騒動**では首謀者のリーダー格でもあった。



神門から拝殿、本殿を望む。



拝殿



本殿
寛政七年(1795)建立。茅葺隠岐造。

隠岐国地図



[国府物語のトップページへ](#)